

令和6年度第1回新居浜市高齢者保健福祉計画推進協議会 議事録

- 1 開催日時 令和7年1月23日（木曜日）15時00～16時00分
- 2 開催場所 新居浜市消防防災合同庁舎 5階 会議室1
- 3 出席者 委員10名（吉松会長、黒光副会長、橋本委員、井下委員、近藤委員、佐々木委員、金子委員、伊藤委員、千葉委員、高橋勁委員）
事務局4名（久枝福祉部長、介護福祉課 山本課長、泉副課長、峯副課長、清家地域包括支援センター 宇野所長、矢野副所長）

4 傍聴者 なし

5 議事概要

(1) 福祉部長挨拶

(2) 委員紹介

(3) 会長及び副会長の選任

会長に新居浜市医師会の吉松泰彦氏、副会長に新居浜市女性連合協議会の黒光恵氏が選出された。

(4) 令和5年度の実績、令和6年度の状況について

配布資料に基づき、事務局から説明

(5) 質疑応答

吉松会長	資料16ページの地域支援事業実施状況の中の、家族介護者慰労金支給事業費について、過去3年間の実績では該当者がいなかったとの説明だったが、対象者はいるが、この事業について知らないから申請者がいないということなのか伺いたい。
事務局（介護福祉課）	<p>地域支援事業は、介護保険特別会計から支出している事業になる。家族介護者慰労金支給事業費の支給要件が、介護保険サービスを利用していない方が対象となる。</p> <p>要介護認定を受けられている方は、介護保険サービスを利用している方が多く、本市では、サービス利用している方で要介護4以上など、支給要件に該当する方には、一般会計予算から、家族介護者慰労金支給事業として支給している。令和5年度実績は129名である。事業所やケアマネジャーでこの事業について知っている人は多い。</p> <p>今年度以降については、サービスを利用していても、利用が住宅改修のみ等の場合は地域支援事業の家族介護者慰労金支給事業費の対象とするなど、要件を緩和する予定で、該当者がいるかもしれない状況である。</p>
吉松会長	せっかく制度があるので、必要な方には行き渡るようにしてほしい。
伊藤委員	<p>資料16ページの地域支援事業実施状況の中の、介護予防ケアマネジメント費は、ケアマネジャーのケアプラン作成費のことなのか伺いたい。</p> <p>また、介護予防一般高齢者施策事業費の内容について伺いたい。</p>

事務局 (地域包括支援センター)	<p>介護予防ケアマネジメント費は、介護予防支援と介護予防ケアマネジメントの2種類があり、デイとヘルパーを利用している方の件数である。</p> <p>介護予防一般高齢者施策事業費は、介護予防の体操などを行う元気もりもり教室を市内4圏域(上部東・上部西・川西・川東)、各圏域で3ヶ月に渡って13回実施しており、4圏域合わせると52回で延べ1091名が参加している。</p>
伊藤委員	<p>元気もりもり教室を開催するだけで、14,452千円の費用がかかるのか伺いたい。</p>
事務局 (地域包括支援センター)	<p>元気もりもり教室の開催を法人に委託するための経費となる。</p>
伊藤委員	<p>資料16ページの地域支援事業実施状況の中の要介護紙おむつ支給事業費について、介護支援専門員連絡協議会の会員から、利用者のおむつの支給が減ってしまって困っているという声をよく聞く。実績をみると支給枚数や¥たいは減っているが、紙おむつの値上がりなどで、市の財政的に仕方がないということなのか伺いたい。</p>
事務局(介護福祉課)	<p>要介護紙おむつ支給事業費は、令和5年度決算額が11,895千円で多額の費用がかかっている、伊藤委員の意見であった紙おむつの値上がりや、業者に委託しないと配達ができない事業のため、配達にかかる人件費などが影響し、予算にも限りがあるので、支給枚数が年々減っている。この事業を完全に止めたくはないので、支給枚数が減っていくことは利用者に申し訳ないですが、現状では仕方がない状況である。</p>
伊藤委員	<p>要介護紙おむつ支給事業は、ぜひ継続してほしい。</p>
吉松会長	<p>昨今、ヘルパーが減ったり、訪問介護事業所が閉鎖したりという報道を聞くことがあり、新居浜市のヘルパーも同じような状況だと思うが、市民から利用ができなくて困っているという声が、市に届いているのか伺いたい。</p>
事務局(介護福祉課)	<p>事業所に運営指導で訪問している時に、ヘルパーの人材不足や高齢化など、切実な話を聞くことがある。ヘルパーに限らず、介護予防事業所全体で言えることだが、起業される方がいるにもかかわらず、介護人材が減っていることは非常に課題であり、市としても危機感を持っている。</p> <p>現在、国で報酬が決まっており、市独自で報酬を決めることができない。新居浜市のヘルパー協議会の委員にご協力いただき、市ホームページや市政だよりに、ホームヘルパーに興味を持ってもらえるような記事の掲載を行っている。既に2月・7月に既に掲載しており、今年3月にも掲載予定なので、ぜひご覧いただきたい。</p> <p>市としても様々な取り組みをしているが、介護人材の増加につながるかと</p>

	<p>うかは長い目で見ていかないといけないので、継続して取り組んでいきたい。</p> <p>市民から直接声は届いていないが、各事業所でかなりの努力をしていただき現状維持ができていると認識している。</p>
伊藤委員	<p>先ほどの介護人材の話に付け加えたい。利用者からヘルパーがいなくて困るという声は市に届かないかもしれないが、ケアマネジャーの事業所が、ケアプランを作成して、ヘルパーに入ってもらったり、デイサービスに行ったり、リハビリを利用したりする時に、「人がいないからその日は難しい」と断ることが結構ある。透析患者で毎週3回行きたいが、ヘルパーがいなくて準備ができないから時間を変更してほしいとか、掃除に来てほしいという依頼があっても、「人がいないからその日は難しい」と断って、かなり調整している現状がある。</p> <p>新居浜市高齢者福祉計画2024の66ページの、介護サービスの安定的な提供の今後の方向性の中に、“介護現場の負担軽減等の取組やICTの活用を含めた介護現場革新に向けた周知広報を進め、介護現場のイメージの刷新に努める”を記載がある。国がケアマネジャーと事業所の連携システムの導入を進めているが、結局、新居浜市の各事業所は進んでおらず、音頭をとる事業所もいなくて、どこかの事業所が単体でシステムを導入しても、結局、受け手側が導入してなくて、連携システムが進んでいない。他市では、行政が音頭をとってシステムを導入して進めている。連携システムの導入は、介護現場の業務負担の軽減につながる。今は、通所介護事業所やヘルパー、福祉用具事業所の人が提供表や実績を、市内数日間かけて回って配布している。連携システムが導入されたら、実績や予定表がWeb上で開いて見えるようになるので、時間軽減になって別の業務もできる。通所介護連絡協議会や訪問介護事業所と話している時に、なんとかならないかという声があるので、市が少しだけ検討していただけたら有難い。</p>
吉松会長	<p>先ほどの連携システム導入の話は、この高齢者保健福祉計画推進協議会で検討するのか、それとも別の機会があるのか伺いたい。</p>
事務局 (介護福祉課)	<p>今のところ、市の中で検討する場はない。</p>
吉松会長	<p>新居浜市高齢者福祉計画2024の目標としているので、3年間で何とか検討していただきたい。</p>
事務局 (介護福祉課)	<p>介護現場のICT活用など、県の事業であったりするので、情報提供を行うなど、市としてできる役割を事業所と連携をとっていけたらと考えている。また、今後意見を聞かせていただき、対応できることからしていけたらと考えている。</p>

(6) その他（委員の委嘱と今後のスケジュールについて）

資料18ページの新居浜市高齢者保健福祉計画推進協議会設置要綱に基づき、市長が委員の委嘱をしている。

今後のスケジュールについて、令和6年度は1回のみ開催としており、令和7年度は1回から2回程度の開催を予定、令和8年度は次期計画の策定年のため3回から4回の開催を予定している。新居浜市総人口が減少している中で、高齢者全体の人口は減少しているが、後期高齢者（75歳以上）人口は令和10年度にピークとなる予想で、85歳以上の人口は令和19年度にピークとなる予想である。今後、高齢化率が高くなる中で、委員の皆さまから意見を頂きながら、介護保険事業について考えていきたい。